

清末における「日本型教育制度」確立過程での張謇の役割

社会科教育専攻
松婷

本研究の目的は、張謇は清末「日本型教育制度」の確立過程での役割を明らかにする。

第1章では、張謇の日本考察の動機を探求して、張謇の『東遊日記』に記された日本の学校視察の実態を分析することによって、彼が日本の近代教育制度に対するどのような認識を持っていたのかを明らかにした。

第2章では、中国の江蘇省南通市を対象として、その地域の郷土教育活動の展開の実態を明らかにした。張謇が編纂した『南通県図誌』を分析し、教科書である『通州地理教科書』および『壘牧郷郷土教科書』を利用し、以下の2つの課題を明らかにした。一つは、張謇の日本的考察は彼が江蘇省南通市での地方自治に着手する過程において、日本の近代教育制度に対する認識が地方教育計画に体现されたかどうかであった。もう一つは、第一点の考察を踏まえ、郷土教育活動をどのように具体的に行ったかを明らかにした。

第3章では、張謇および彼が主導した江蘇省教育会が教育制度に改正の過程を分析し、張謇の影響下にあった「日本型教育制度」の修訂の過程を明らかにした。

以上のことを踏まえて、第4章では、結論として、張謇の教育的価値観から出発し、どのような教育的価値観が彼の行動と実践に影響したのかを追究した。さらに中国近代の「日本型教育制度」確立過程の彼の役割を明らかにした。

本研究の成果は、以下の通りである。1点目は、1903年、大阪の第五回勸業博覧会を訪れた際、張謇は日本の教育、実業などの分野を視察した。その過程での実態および張謇の日本近代教育制度に対する認識を明らかにした。2点目は、20世紀初頭の清政府が「日本型学制」を導入するに伴い、郷土教育は学校教育の一部になった。南通市の郷土教科書の内容編纂や教育方法の諸側面から、当時の中国の郷土教育に日本の郷土教育の影響が浸透していることを明らかにした。そして、張謇をはじめとする中国の一部の知識人は、地方自治による国民教育を試みていた。郷土教育の理念や意識は、張謇が設置した学校の教師たちが編集した地方誌、郷土教材などの媒体を通じて広められたということを明らかにした。3点目は、張謇が主導した江蘇教育会の発展過程と教育活動を分析することによって、張謇が近代教育の発展に対してどのような理念を持っていたかを明らかにした。また、このような教育理念に基づき、江蘇教育会が近代の日本型教育制度に貢献したことを明らかにした。4点目は、張謇の教育的価値観を分析することによって、転換期の過渡的な人間としての特徴を明らかにし、教育実践における近代的な教育制度の確立過程における張謇の役割を明らかにした。